

土とふるさとの文学全集

14



土とふるさとの文学全集

14

大地にうたう

大地にうたう

昭和五十二年二月二十日 発行

編集人

白井吉見
小田切秀雄
瀬沼茂樹
水上勉
和田傳

発行者

高橋芳郎

東京都新宿区市谷船河原町十一(〒162)

発行所
法人 団 家の光協会 ©

電話 (262) 三一五一(大代表)

振替 東京 5 | 4 7 2 4

印刷 三松堂印刷株式会社
製本 製本株式会社

大 地 に
う た う

土とふるさとの文学全集

14

村の四季

磯村 礼二郎 赤い旗	石 田 利 夫 種まき	石 井 藤 雄 夏のうた 秋のうた 秋のうた 雨	猪 狩 満 直 農勢調査 馬(二) ある百姓の詩 吹雪の夜の会話 統計調査(二)	飯 野 農 夫 也 嵐の人 ふるさと	浅 田 二三男 いのしし II
30	30	23	20	19	18
植 木 曜 介 木曜介 子守女の背中で聞いた唄コ	井 伏 鱒 二 陸稲を送る	井 上 俊 夫 れんげそう 平七、どうしたい	犬 養 智 牛を売ってしもうた 野良の昼飯 無題	伊 藤 和 老ぼれめ 稲を刈る 馬を休ませる お祭りだというて	一 戸 謙 三 夜露
40	39	37	35	33	31
小 原 麗 子 サワ・一人の女に	押 切 順 三 放棄	奥 山 忠 男 手問をみない百姓	小 熊 秀 雄 馬の糞茸 乳しぼりの歌	岡 田 武 雄 泡子地藏	大 塚 史 朗 嬉戯する少年に寄す わらべうた
51	50	49	47	46	44
					大 塚 甲 山 里ごころ
					42
					大 島 養 平 親父 にゆう場で
					41

香 川 弘 夫 52

冬の夜への頌歌

加 藤 精 宏 55

馬の詩 (一)

加 藤 吉 治 56

山村哀歌 (その一)

山村哀歌 (その二)

山村哀歌 (その三)

夕焼

吹雪 (その一)

吹雪 (その二)

吹雪 (その三)

吹雪 (その四)

北 川 広 夫 59

村に残された女たちの唄

昏い水田で

北 田 一 正 61

乾燥列島

北 本 哲 三 63

凶作

毛引願ひ

健康なやつだけを

木 下 和 郎 65

しけこの魂

ことしの秋に

健吉のこと

ある老人

木 下 夕 爾 69

前庭

米つくり

都の友へ

大霜

草 野 比 佐 男 70

村の女は眠れない

小 坂 太 郎 71

儀式

兄 玉 花 外 72

農夫

斎 藤 庸 一 74

雲雀

インテリ

匂い

嫁とり

坂 本 遼 77

牛

相 模 清 之 77

お不動様

由紀子

佐 藤 末 治 80

年貢 (子供の唄)

百姓は唄ふ

貧農の日暮刻

内証ばなし

牛

佐 藤 藤 三 郎 82

妊婦 (一)

アンドン

更 科 源 藏 83

敬とイモ

熊の話

出席歩合

椎 窓 猛 85

一族

洪 谷 定 輔 86

野良の喜び

不安な北風の夜

親爺よ

野良での話

ネギぼうず

おんなよ

清水 房之丞 89

霜害警報

早寝した晩

新開 ゆり子 90

かつこお鳥啼ぐでば はあー

杉 浦盛雄 91

残酷な季節

杉 谷昭人 92

畦塗り

杉山市五郎 93

芋

開墾者

俺達の生活を植付けよう

鈴 木勝 95

食へない労働

麦蒔種蒔

鎌の柄

冬の月

砂 丘浪三 97

五月

高 木恭造 97

吹雪

陽コあだネ村

苗代の稲妻

凶作^{ワガセ}生活^{ワザン}

高田 正七 100

農婦

乳の花粉

高橋 小一郎 101

余情

高橋 秀峰 101

早春

高村 光太郎 102

山口部落

田口 勝一郎 103

おしろい

竹内 正企 103

肉牛飼²い

武田 繁 104

日の道と

戸田 正敏 106

村の地藏さん

秋野

友田 多喜雄 107

開墾

夕暮

冬

中島 葉那子 109

暴風雨のあと

中野 鈴子 109

わたしは出かけてゆく

仲山 尚江 110

夏草の中で

農閑期

名本 栄一 112

憩ひ

西岡 寿美子 113

北の花

錦 米次郎 114

菜種田にて

百姓の死

収穫記

ぬめ ひろし 117

もっこりぜんこ背おって来たべ

萩原 恭次郎 118

桑摘み

もうろくづきん

繭売りに来る農夫

浜川 弥 120

もったいない
春をする

平 井 晩 村 122

雪ふる村
賤しづのならひに

平 根 実 124

小正月

福 田 正 夫 124

農民の言葉

農村より

星 野 元 一 126

牛になる百姓の歌

細 川 基 127

棘のある巢

月夜

秋の娘

晩秋

真 壁 仁 131

祖母の詩

蚕の詩 その一

蚕の詩 その七

浸種の朝

娘達の話

どろの木によせる祈り

松 沢 清 人 136

牛について

ある誕生

松 村 又 一 138

米俵編む夜

黛 元 男 139

果樹園にて

南 邦 和 140

おんなたち

南 川 比 呂 史 141

おなごひとりのうらみぶし

おがる

宮 本 善 一 143

死期

腕時計

山 田 伍 市 144

農機具実演会

開拓地の空

山 村 暮 鳥 146

野良道

野良道

野良道

野良道

刈りとられる麦麦の詩

西瓜の詩
西瓜の詩

山 本 丞 148

秋耕

鬼の村

吉 田 朗 151

ライ麦

次郎の足

安さんが笑った

渡 辺 剛 153

嫁ごとり

渡 部 信 義 154

吹雪の葬式

藁打ち

乳もらひ

雪囲ひ

秋映え

糶打ち

種蒔き

夕疲れ

野の歴史

相沢史郎 北・まぼろすの……	猪狩満直 告白	浅井十三郎 開墾地	浅田二三男 岩	石田利夫 新幹線の通る村	土 もがり笛の村	井上俊夫 寓意の水車 はげしう 半夏生は水につかった！	泉野作雄 資本主義的農村風景	岩淵威夫 凶作
162	163	163	165	166		170	173	174
大沢重夫 受難(一)	大島養平 若い農民(抄)	大塚甲山 米ぬす人	押切順三 重たい草	風山瑕生 讃歌・母の腰	加藤愛夫 むら	加藤吉治 熊牛の丸太小屋	加納博史 デサマの話	亀谷健樹 ある百姓の死
175	176	178	179	180	182	184	186	188
北川広夫 庚申 北の荒地にて 悲の血 盲目の夕ぐれ	北山雅子 田をうなひつゝ	木村朝郎 古い屋根の下で	木村信吉 凶作地帯	木村迪夫 歴史の中のおんな おはんのうた	金田国武 火山灰地 辛い農法	草野比佐男 阿武隈の燕 移動する故郷		
189	192	194	196	198	202	204		

たたみのうえで死にたまえ

古賀 忠 昭 211

逃げた

小 番 績 215

月見草

埋葬が終る

ベルト・コンベアの国道の村

小 坂 太 郎 219

七曲峠から

奥羽線Y駅

米・I

斎 藤 彰 吾 223

親と子と

斎 藤 林 太 郎 225

神町 五

斎 藤 諭 吉 220

農村七月

桜 井 勝 美 227

馬

泥炭

サロベツ原野

佐々木 秀 雄 231

渡り鳥

佐 藤 秀 昭 231

偈

白 鳥 省 吾 233

Ⅲ 耕地を失ふ日

づるり踊

新 開 ゆ り 子 234

万作の花咲く村

明治の女

鈴 木 勝 237

石油発動機

瀬 谷 耕 作 238

おろすが新田

かんえもん地蔵

相 田 謙 三 241

土くれを喰う神

たかせ とよじ 242

土地改良の話

竹 内 美 代 乃 243

吉蔵のこと

武 田 郁 子 244

窓口で

武 田 正 245

呪詛

蔵王のある村

竹 村 浩 246

小作人を歌へる

土 屋 公 平 247

新らしき地床

千 葉 宣 一 248

泥炭地二十五時

戸 田 正 敏 249

出稼ぎ村

友 田 多 喜 雄 250

秋

永 島 卓 251

1966.11地方

虹の掬よふるさとの泪はすでに

中 勘 助 253

飢饉

長 崎 浩 254

無題

中 野 重 治 255

夜刈りの思ひ出

縄 田 林 蔵 256

苗半作ときかされたが

牛

牛

西 岡 寿 美 子 259

藤井逸郎	とがめるな、人よ	273
福田正夫	瘦地	272
平田英徳	原祖 早魃の村 ある家系 ゆきたくない	270
浜川弥	寒村を巡る畑	269
萩原恭次郎	黒い田圃 強首野開拓地素描	267
ぬめひろし	タモの木のあるハサ場	264
新田良夫	お化け屋敷	263
延原大川	大正琴	262
錦米次郎	錢の村の選挙の話	260
	村で	

堀江末男	境界線	274
前田新	むかい火	276
松沢清人	大徳原開拓地 収穫祭 (1) 収穫祭 (2)	277
真壁仁	街の百姓(一)、(二)、(三)、(四)、(五) 日本の農のアジアの様式について 冷害地帯	279
南川比呂史	伝説・ああああ	285
宮沢賢治	野の師父 稲作挿話 和風は河谷いっぱいに吹く それでは計算いたしませう 悍馬 開墾地検察	286
森佐一	山村食料記録	293
山内透		294

山田野理夫	凶作地帯 凶作図景 山間小学校 魔村	296
吉野臥城	生活の苦悶	297

記憶の底に

浅田 二三男 300

熊やんの足

庭の木

阿久津 哲明 302

母のない家

鶏・母

飯野 農夫也 303

うつくしいものはむねのなかに
のこっているだけだ

石井 藤雄 305

百姓の伴って

磯 茂樹 306

くさもち

食しんぼうなおれ

一戸 謙三 308

猫柳

井上 俊夫 308

境界の中で

畦せせり

遠いみずうみ

植木 曜介 312

独白
ひとりごと

帰郷

上野 頼三郎 313

牧場ニ行ッタ牛ノ詩

春さきの詩

貧しさが生んだ詩

あるおじいさんとおばあさんの話

臼井 太衛 315

跡に草が生える

土民と効果

崩れ去らないように

大塚 甲山 320

野に出でて

及川 均 321

提灯さげてゆく花嫁

崎 純

汗かき地藏

重箱

大根

足半草履

壺

南瓜

大河原 幹雄 326

水を盗む

押切 順三 327

おみなえし

小田 邦雄 328

雲

霜害警鐘

小屋から町の靴屋への便り

加藤 精宏 330

泥田の中で

風山 瑕生 330

号泣の前

北林 正 331

農地改革

北本 哲三 332

山林を売る

妻よ

売られ行く者よ

百姓

儀 府成一……………338

思い出

お菓子の話

ぐみの枝

栗めし

農婦唱

五つの冬

二十年めの寢床

木 村朝郎……………341

母

囲炉裏ばた

木 村徹……………342

イシヨの手ならい

木 村迪夫……………344

とほうもないならわし

木 山捷平……………345

オカアの血のにじんだ餅

おしのの腰巻

新吉ところの牡牛

たうもろこしのひげ

黒 田喜夫……………347

朝の光

燃えるキリン

斎 藤庸一……………349

演説

はんこ

坂 本梅子……………350

父を葬ってから

坂 本遼……………351

春

お鶴の死と俺

悲劇

時雨

桜 井勝美……………355

原野の子

佐 藤秀昭……………356

毛越寺二十日夜祭

佐 藤政彦……………357

いちくちの稲

ツグミ

更 科源蔵……………359

手紙

島 崎藤村……………360

労働

清 水節郎……………364

疾走・華麗なる列島をめぐる

断面の叫び

新開 ゆり子……………366

北限の米作農民

鈴 木致一……………368

父へ

おさきばあさの話

鈴 木秀雄……………370

出生の詩

相 田謙三……………370

蜘蛛と女と月と

高 木恭造……………371

冬の月

高 木護……………372

天

翼

聞いてくれ

村の絵本

高 田正七……………375

からだ

高 橋英夫……………375

透蚕の唄える

竹内 智恵子……………376

半採り半残し

死し人びと花はな

人買ひとかひ

おたすけさま

囲炉裏いろりの話

壺かめといっしょに

竹村 浩

.....
381

蚕飼かいふ村

妻下 正義

.....
382

ある母系

寺門 仁

.....
384

無題遊女

桐の花遊女

おかっぱ遊女

麦遊女

戸田 正敏

.....
387

ぜんまいの頃

青い葡萄

友田 多喜雄

.....
389

兎の話

長崎 浩

.....
391

年寄り

中島 葉那子

.....
391

出稼でかぎの話

南瓜かぼちゃの種

中野 鈴子

.....
393

家

母の手紙

西岡 寿美子

.....
396

鎌

西野 幸三郎

.....
397

故郷からの手紙

松沢 清人

.....
398

夏の休暇

父たちの季節

地の踊り

松永 伍一

.....
402

木枯し

早魃はやば記

誕生

間野 捷魯

.....
404

牛と男

村から

宮本 善一

.....
405

敵

三好 十郎

.....
406

山東へやった手紙

安水 稔和

.....
408

泥田どろいかな

山田 伍市

.....
410

ボクと妻

山田 清吉

.....
411

べとの声

納骨

山村 暮鳥

.....
412

父上のおん手の詩

闘いの日々

秋田 芝夫 414

百姓の子太吉

あゆかわのぼる 414

村・謀略

猪狩 満直 416

仲間よ俺達は戦っている
あいつ何喋ってんだ

石田 利夫 417

心に線は引かれない

伊藤 和 418

高神村事件のときの詩
百姓の話

米を売る話

上 政治 421

老人の言葉

十二月の村を浮動するもの

小熊 秀雄 473

農民組合の一員の死

風山 瑕生 425

加藤 吉治 427

仮泊の夜
開墾地で

北林 正 429

牛を殺す！

北本 哲三 431

たゝかひ

木原 豹 432

別れ

木村 徹 435

水車番

木村 迫夫 436

村へ

日下 実 437

小作人

国井 淳一 438

雨を呼ぶ水呑百姓
藁しべ

黒田 喜夫 439

空想のゲリラ
狂児かえる

変幻

小坂 太郎 443

篤農

腰山 茂忠 444

お前と俺と
アナキスト宣言

古茂田 信男 445

身売り話
口惜し涙

腹がへったか
田螺の暮し

冬の田で
百姓

斎藤 諭吉 447

急死

斎藤 林太郎 449

急死

定村 比呂志 450

麦を見よ！

廃園の血脉

佐藤 藤三郎 452

実態調査の中から

佐 鳥 吉 美 453

冷水地帯 (一)

渋谷 定 輔 454

おれたちは自然に玩弄される

虐殺者はだれた I

虐殺者はだれた II

血と汗と涙の結晶

この生存

生き地獄

新しき生産者

白 鳥 省 吾 459

小作人の子

新開 ゆり子 459

天まで他人のものに

杉 沼 秀 七 460

橋

吹雪

凶作地の別れ

哀しき村

鈴 木 致 一 465

秋の畑で

高 橋 辰 二 466

官林にかこまれた村

田 村 乙 彦 467

母

土 屋 公 平 470

これで決ったといふのか?

道 満 誠 471

わしはお前らに飯が食わしたい

酒

友 田 多 喜 雄 473

強い男たちは

長 崎 浩 476

災害地帯

長 沢 庸 夫 477

農民話しあい大会によせて

長 沢 佑 478

貧農のうたへる詩

落のとうを摘む子供等

名 本 栄 一 481

曠野に狂ふ

錦 米 次 郎 482

我百姓に就いて

花岡供米事件

延 原 大 川 485

土塊を蹴る

風を聴く日

星 寛 治 486

墜ちていく百姓

真 壁 仁 489

弾道下の村

松 田 孝 夫 491

梅雨の間の真夏のような一日は

松 村 又 一 493

翼の抜けた田園

黛 元 男 494

夜の村にて

三 浦 一 495

農道を拓く

南 川 比 呂 史 497

どぶろく考

三 野 混 沌 498

競争

山 田 弥 三 平 499

子におくる

危機を叫ぶ

阿部圭司		502
田利夫		504
石田利夫		504
磯村礼二郎		506
磯村礼二郎		506
伊藤信吉		507
霜		507
夜警		507
磐城葦彦		510
及川均		512
大澤重夫		513
大塚史朗		514
横田家の鬼		512
傀儡者		513
風山瑕生		526
風山瑕生		526
押切順三		525
大河原幹雄		523
つづやき		523
谷間の分家		523
死んだジイ様の枕の下貯え		523
願い——えらい人のくれるもの		521
岡部清		521
百姓の宗教		520
小笠原雄二郎		520
火山灰地		517
ドブ Rok		517
奥山潤		517
空に地に群がるもの		517
稲ハサのうた		516
頼かぶり		516
おおむらたかじ		516
北田一正		528
日本酪農概論(5)		528
日本酪農概論(7)		528
農民未来考(2)		528
一つの農民像(3)		528
木村徹		532
出産		532
草野比佐男		533
霜月大風		533
小坂太郎		535
伝説		535
機械		535
古山信義		537
この事実ノ		537
斎藤諭吉		538
稲揚げ終わる		538
佐藤良三郎		538
百姓		538
米		538